

平成19年5月22日

高崎市長 松浦 幸雄 様

高崎市新町地域審議会
会長 五十嵐 正 行

答 申 書

平成19年4月26日付け第24-1号で諮問された、高崎市第5次総合計画基本構想に係る地域のまちづくりについて慎重に審議した結果、計画段階から幅広い市民の声が取り入れられるなど、凛とした透明感のある施政方針が見られ、その内容は妥当と判断します。

なお、新町地域（生活都市ゾーン）としてのまちづくりについては、次の事項に十分配慮し推進されますようお願いいたします。

記

1 答申内容

(1) 生活都市ゾーンとしてのまちづくり

新町地域は鉄道があり、道路網にも恵まれています。

また、文化水準のバロメーターとも言われる下水道の普及率に代表されるように、さまざまな都市基盤整備が進んでおり、毎日の生活にはとても便利な地域です。

道路は隅々まで舗装され、文化施設や体育施設も鉄道の北側、南側というように、ひとつおり整っています。

そして、東西約2.8キロメートルというコンパクトな地域だけに、車を運転しない人でも歩いたり、自転車を使って目的地まで行けるという利点もあります。

しかし一方では、人口密度が高いことや、鉄道と国道で地域が南北に分断されていること。また、車の交通量が非常に多いことなどから、都市化に伴う不便さやストレスといったものもあります。

そこで、いまの便利さはそのまま享受しながらも、さらにワンランク上の住みやすさを目指した地域整備をお願いするものです。

毎日の生活にゆとりが感じられ、子どもやお年寄り、障害者など社会的弱者も安心して暮らせ、自然環境を守る暮らしができる、そんな「顔」

を持つ、深みのある地域、そんな姿を次世代に手渡したいと考えているものです。

そしてそのための一つの施策が、地域を横断しているＪＲ高崎線の連続立体交差化です。

新町地域は言うまでもなく、駅を中心として住民活動が行われており、駅を中心としたまちづくりは地域活性化の面においても欠かすことのできないものであります。

また、ＪＲ高崎線の連続立体交差化が完成しますと、南北分断の解消はもとより、生活圏がさらに広がり、安全性・利便性も向上します。

そして自然環境面では、中心市街地にはハナミズキの街路樹が、また、河川敷の芝生広場には四季折々の花々が植えられ、まるで地域そのものが公園の中にあるような、穏やかで心豊かな生活環境が整った「住む人の生活に密着した」生活文化都市を目指して頂きたいというものです。

(2) 施策の展開について

ア 「安全・安心」はまちづくりの基本的条件です。

こうしたなか、国道と鉄道による南北分断は、一体的なまちづくりをはじめ踏切遮断による消防車輛や警察車輛など、緊急車輛の通行の妨げとなっており、地域住民の人命や財産へも影響を及ぼしていることから、早期推進を望むものです。

イ 1日平均約7,000人の乗降客がある新町駅は、多野藤岡地域や玉村、岩鼻地域、さらには前橋南部地域の方々も利用するといった広域交通拠点となっています。

こうした新町駅利用者の方々を中心市街地に誘引するような商店街整備等を推進し、地域の活性化が図れるようお願いします。

ウ 飛び地である新町地域にとって、消防・救急業務や警察管轄区域が異なることは、安全・安心面において不安を感じています。

このため、早期統一化についての調整をお願いします。

エ 市民参加と地域づくりの推進については計画段階から様々な方法で取り入れられ、また、基本計画項目としても位置づけられておりますが、実行段階においても、より多くの人の声を聞き、血のかよった行政、市民に見える行政の推進をお願いします。

2 審議の経過等

ア 平成19年4月19日(木) 素案策定までの経緯等について説明

イ 同年 5月 7日(月) 各委員の意見聴取及び調整

ウ 同年 同月 11日(金) 答申書の作成